

れき 民

# となん歴史民だより vol.44

Morioka tonan history and folklore museum

平成 27 年 9 月 30 日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



大国神社奉納絵馬(盛岡市指定有形文化財)

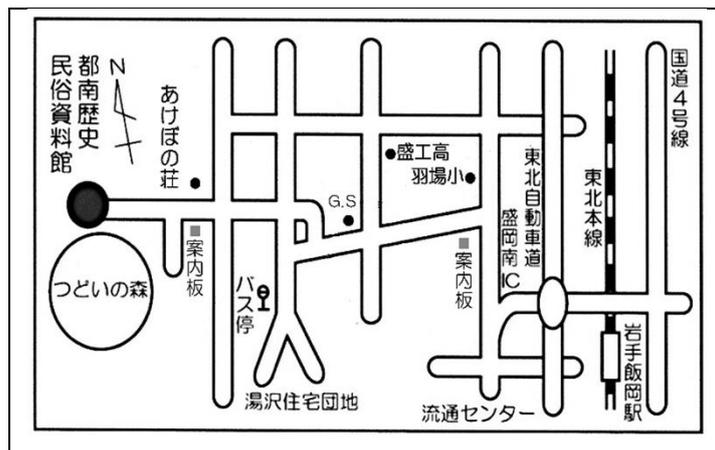
大国神社所蔵

## 是非ご来館ください。お待ちしております。

### — もくじ —

- 都南の遺跡(その5)
- 企画展「都南の社寺と人々」
- 移動資料展のご案内
- 資料は語る④
- 盛岡市所在  
指定・登録文化財紹介④
- となんの昔ばなし④

### MAP☆ACCESS



### ○利用案内

#### 開館時間

午前9時から  
午後4時まで

#### 入館料

無 料

#### 休館日

月曜日  
(休日に当たるときは、  
直近の平日)、年末年始

## 都南の遺跡（その5）

盛岡市都南歴史民俗資料館 館長 玉川 英喜

盛岡市都南地域の遺跡シリーズとして、これまで縄文時代から順に平安時代まで紹介してきました。今回はこのシリーズの最後として、鎌倉時代・室町時代の所謂中世城館跡について紹介します。

12世紀の終わり頼朝の奥州合戦後、陸奥国は鎌倉幕府の支配下に組み込まれます。都南地域を含む志和(斯波)郡にも鎌倉の御家人が配置され、北上川河東地域は河村秀清に、河西地域は足利義兼に与えられます。河村秀清は藤原秀郷11世河村秀高の四男で陸奥河村氏の祖となります。13歳の時、頼朝の奥州攻めに従軍、阿津賀志山の戦いで奮戦、その論功行賞により志和郡、岩手郡東部を与えられます。足利義兼は源頼朝の従兄弟、義兼の妻は北条政子の妹で、頼朝の信任が大でした。志和(斯波)郡河西は、平泉藤原氏の重要な拠点比爪館のあった所で、そのため信任の厚い義兼に与えられたものと思われます。義兼の子孫はその後斯波氏を称するようになり、郡内に勢力を根付かせていきます。室町時代になると、斯波氏は足利氏につらなる名門として隆盛を極め、河東の河村一族を従え、紫波66郷を封じられます。

都南地域の館跡は概ねこうした河村氏、斯波氏の一族あるいは家臣団の城館とされています。館跡全体の発掘調査等が行われたことはありませんが、昭和50年代後半、岩手県教育委員会が県内の中世城館跡の分布調査（現況確認）を行い、この報告書には都南地域11の城館が報告されています。また、「乙部館」や「向中野館」、「見前館」は開発に伴い、館の一部が調査されています。以下に、都南地域の主な城館跡を「岩手県中世城館跡分布調査報告書」（県教委）から抜粋して紹介します。

### 【都南地域の主な城館跡】

名称/所在地	調査・状況 等	城主
飯岡館 上飯岡 字赤坂	飯岡山の北東山麓部に立地。背後の尾根を空堀で断ち主郭を築く。その正面は北東を向き3、4段の腰郭が取り巻く。その下に空堀が三方向から入る。なかでも南の空堀は沢地形を利用し、幅約15mを測る。この最奥部には土塁が築かれ、東へと下る。東空堀にも両端に土塁が沿う。この空堀と北空堀に囲まれ、二の郭の平場があり、先端に空堀・土塁が付く。南は秋葉神社境内が郭で、腰郭がまわり北面に空堀、神殿背後にも尾根沿いの土塁があり、前述の南空堀へと続いている。	飯岡平九郎 (志和軍戦記) 飯岡弥六郎祐貫 (奥南落穂集)
乙部館 乙部字館	館南面は乙部川に面し、主郭部分では15～18mの断崖となる。主郭東西を空堀で切る。特に東側は大きく、幅約15、深さ10mに達する。主郭北部には腰郭の段が付く。空堀東側に一段高い平場があり、郭となる。この郭の東にも空堀が南北に入る。東端は約2mの段差が付く、その下に空堀が入る。主郭西側に空堀を隔て二の郭。その西は如法寺境内・墓地で、西端は沢が回り、約3mの段差がある。	乙部兵庫 (奥南落穂集)
大萱生館 大ヶ生 字城内	岩前山西麓が乙部川に張り出す丘陵の先端に位置する。北西部の沢を利用した堀が入り、尾根を切断して東南部へ達する。堀の北側は段が付く、一部は幅約5mの帯郭となる。館は空堀で三区画され、中央が主郭と思われる。館南面には2、3段の帯郭が付く。その下に空堀状の沢が入り込む。この沢を隔てた南側丘陵頂部の平場は出郭になるとと思われる。	大萱生玄蕃 (祐清私記)

## 企画展

# 都南の社寺と人々

当館では、平成27年9月26日(土)から11月29日(日)の期間、企画展「都南の社寺と人々」を開催しております。

本展では、都南地域に残る民話との関わりも深い都南の神社やお寺について、瀧源寺のシダレカツラのようにお寺、民話とつながりがあるもの、大国神社のように神社と町がつながっているものなど人々によって大切に守られてきたお話や資料を通してご紹介します。

また、開催期間中の11月3日(火・祝)13時30分からは、当館本館展示室において盛岡弁に親しむ会の皆様が都南地域に残る神社やお寺に関わる民話を中心に盛岡弁でご紹介する「都南の民話がたり」が開催されます。(予約不要、当日来館)皆様のご来館をお待ちいたしております。



長善寺経塚出土 一字一石経 (長善寺蔵)

写真提供 盛岡市遺跡の学び館



奉納絵馬 (大国神社蔵)

盛岡市指定有形文化財

## 盛岡市都南歴史民俗資料館

### 移動資料展

平成27年10月9日(金)

～10月12日(月・祝)

当館では、平成27年10月9日(金)～10月12日(月・祝)の期間、都南公民館において移動資料展を開催いたします。糸車などの製糸道具や大工道具など当館所蔵の働く道具を展示いたします。

【場所】盛岡市都南公民館(キャラホール)  
2階美術室

【時間】平日 9時～16時  
土日祝日 10時～16時



【写真 三本柳渡船場】

写真は、昭和 32 年(1957)に撮影された市内三本柳の渡船場です。北上川がほぼ中央に位置する旧都南村では、飯岡、見前一乙部間を往来するための渡し舟は重要な交通手段であり、人以外にも馬や薪、農産物などが運ばれました。写真中央の左右にみえるのは鉄導線で、岸の両側をつなぎ船が蛇行せず対岸へ進むためのものです。写真には、船を降りる女性と自転車を降ろそうとしている学生と思われる人が写っています。昭和 37 年(1962)に徳田橋が完成したことで、都南地域のほとんどの渡船場は姿を消します。この写真は、最後まで残された三本柳の渡船場の様子を伝えています。

参考：都南村誌編集委員会「都南村誌」(1974)、記念誌編集委員会編「都南大橋開通記念誌」(1987)ほか

盛岡市指定無形民俗文化財



三本柳さんさ踊り

三本柳さんさ踊りは、三ツ石大権現が鬼を撃退した際に踊ったことに由来すると伝わっています。盛岡藩主南部利敬により奨励され、踊りの保存に関して巻物を授かったと伝えられています。周辺地域のさんさ踊りは、三本柳さんさ踊りを伝承したものといわれており、昭和 58 年(1983)の第 3 回日本民謡舞踊大賞において大賞と総理大臣賞を受賞しています。三本柳の平野神社境内には、昭和 51 年(1976)に建てられた「三本柳さんさ踊発祥の地」の碑があります。

参考・引用資料

盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)、  
都南村教育委員会「都南の民俗芸能」(1983)

『飯岡城印の杉・前編』

となんの昔ばなし四十四

今から千年も前のことです。陸奥の国六郡の郡司であった安倍頼時の子安倍貞任の家来で、矢の又平司という武士が秋葉神社のあたりに住んでいました。

ある日、この矢の又平司は用事があったため家来も連れずに一人で加賀の国広田郡徳屋村の親類のもとへ旅に出ました。用事も済み別れを惜しみながら国へと帰る途中、木曾街道を歩くと、身長が二メートルもある大男の山伏に会いました。この山伏が平司の顔を見て

「やあ、あなたの懐には旅のお金がたくさん入っていると語られるが、少し私に恵んでくれ」と語りかけました。平司は

「お金は持っているが、ながい旅になるので、申し訳ないが勘弁してください」と断ります。すると山伏は、

「この侍め、なんて欲の深いやつだ。さあ、命とお金とどっちが惜しいか」と太刀を抜いて切りかかりました。平司は、からからと声をあげて笑い、

「山伏の作法とはそういうものか、某は奥州の侍、そんな脅しに驚いて旅などできるはずもない。刀ではなく、力勝負をしよう」と言いました。山伏は、心得たと答え二人は力のかぎり組み合いましたが、なかなか勝負はつきません。